



メンドシーノ姉妹都市交流事業

2024

メンドシーノ訪問団は、6月18日（火）に来日してから、東京、広島、京都など各地を訪問し、6月27日（木）に美麻に到着しました。

歓迎会では、PTAやボランティアの皆さんが用意した料理を食べながら、和やかな交流ができました。滞在期間中は、小中学校での交流、霊松寺での座禅体験などを通じて交流を深めました。市役所表敬訪問では、市長に直接質問をする機会があり、大町市の歴史や産業など、メンドシーノの皆さんが、幅広く興味を持っていることが分かりました。ふれあいセンターで開催した交流会は、

地域の皆さんが夏祭りの雰囲気表現した屋台が用意され、太鼓やギターの演奏などで、にぎやかなタベとなりました。

7月2日（火）の帰国の際には、「とてもいい思い出になった」と、ご協力いただいた皆さんへの感謝を伝えられました。

改めて、メンドシーノ交流事業にご協力いただいた皆様に感謝を申し上げますとともに、引き続きメンドシーノと美麻の交流へのご協力をお願いします。

（実行委員会事務局）



地域の情報をホームページ
やSNSで発信しています。

美麻wiki



2024年10月号
104
— Since 2006.7 —

メンドシーノ訪問団をお迎えして



小林会長

エリン代表

メンドシーノ訪問団の受入に、ご協力いただいた全ての皆さんにお礼申し上げます。

今回は5年ぶりの受入となったため、PTAや行政関係者には、これまでの事業を体験したことのない方も多く、戸惑いがあったようです。しかし、ボランティア・ネットワークの蓄積されたノウハウや人脈のおかげで、対処することができました。こうした、積み重ねが、30年以上に渡って交流事業を続けることができた、大きな力です。これを機に多くの方が、交流事業を支える輪に加わっていただければ幸いです。

メンドシーノ姉妹都市交流実行委員会

会長 小林 敏文

【ホストファミリーをやってみて】

コロナ禍を経て6年ぶりの再会、お世話になったHost family初めましての・彼らたち。

みんな歌って踊って楽しくて、仲良しで、さよならパーティーはとても貴重な時間でした。ゲストを迎え入れる経験は二度目。おもてなしには相変わらず不慣れで、慌ただしく過ぎ去り彼らとの言葉の壁はコミュニケーションを縮めるのに時間がかかる。むしろきっとこの刺激的なもどかしさが楽しいのでしょう。メンドシーノは、私にとっていつか訪れてみたい特別な場所の一つになりました。

長きに渡り、姉妹都市交流を続けてくださり感謝の気持ちでいっぱいです。(神戸 真由美)

ホストファミリーとして、久しぶりの受け入れをするということもあり、大丈夫かな…というドキドキと、すごく楽しみ！なドキドキでいっぱいでした。

そんなドキドキの中…迎えた当日、訪問団がバスから降りて来た受け入れるテオとフェニックスが息

メンドシーノ姉妹都市学生交換プログラムのリーダーとして、私は27人の学生を忘れられない日本旅行に案内する素晴らしい機会に恵まれました。私たちの冒険は活気に満ちた東京の街から始まりました。そこから私たちは広島へ向かい、そこで平和記念公園の歴史について学生たちの間で有意義な議論が生まれました。京都では、見事な寺院と伝統的な茶道に魅了され、日本の豊かな文化遺産への認識を深めましたが、私たちの旅の真のハイライトは大町市美麻でのホームステイでした。

ここでは、学生たちは地元の家族と一緒に生活し、本格的な日本のおもてなしを体験することができました。このユニークな機会は、食事を共にしたり、伝統工芸を学んだり、地元の祭りに参加したりするなど、深いつながりを育みました。

この体験の間の彼らの成長と喜びを目の当たりにすることは、本当にやりがいのあることでした。彼らが築いた友情と学んだ教訓は、彼らの人生に永続的な影響を残しました。この交流が彼らの日本に対する理解だけでなく、世界に対する見方を豊かにしたのを見るのは心温まるものでした。

メンドシーノ姉妹都市学生交換プログラムリーダー

エリン マルサム

子とハグ！息子にとっては1年ぶりの再会。その姿を見て感動し、テオとフェニックスと一緒に過ごす時間が始まりました。言葉の壁がある中でも、私の不慣れな英語でも彼らは笑顔で対応してくれました。彼らの優しさに触れながら、一緒にたこ焼きを作ったり、BBQしたり、松本城に行ったりなどしました。

そして、あっという間に時間は過ぎていきました。

4日間ではあるけれど、彼らと過ごした時間は、とても良い思い出になりました。彼らにとっても美麻で過ごした時間がいい思い出になっていればいいと思います。美麻とメンドシーノの交流がこれからも続いていくことを願っています。

(早川 安希子)



友情を深めた学校交流



メンドシーノ訪問団との学校交流が6月28日に行われました。交流事業は、昨年度メンドシーノを訪問した8・9年生が中心となり、準備を行ってきました。コロナ禍もあり、4年ぶりの受け入れとなったため、子どもたちも職員も手探りの状態でしたが、各学年で子どもたちが中心となって積極的に動く姿がたくさん見られました。

訪問団到着からとてもいい表情で交流が始まり、英語や日本語で互いに積極的にコミュニケーションを交わす様子がありました。クラスや全校の交

流では、日本の文化や「和」をテーマにさまざまな体験や交流が行われ、美麻の子どもたちが訪問団の人たちの手を引いたり、教えたりする姿も見られました。

今年の夏休みには、昨年度の卒業生が一人でメンドシーノを訪れホームステイをしたそうですが、このメンドシーノ交流が美麻の子どもたちにとって、自分の世界や視野を広げる素晴らしい機会になっていることを改めて感じるどころでした。

(文責：赤坂亜由)

源流美麻太鼓がメンドシーノで芸術交流



源流美麻太鼓、会長の保科です。この度メンドシーノ姉妹都市芸術交流の一員として7月12日～16日にかけてメンドシーノを訪問し演奏活動と交流事業を行ってまいりました。地区の皆様には我々の渡航にあたり多大なるご支援を賜り心より感謝申し上げます。12日にメンドシーノに到着し即太鼓のメンテナンス。13日にはアートセンターにて開催された姉妹都市国際交流展の歓迎会に

て演奏、14日にはこの期間開催されているミュージックフェスティバルに参加。両日とも大勢の地元の方や観光客の皆さんの前で大いに盛り上がりました。15日にはワークショップを開催。地元の太鼓チームMENDO太鼓の皆さんや一般参加の皆さんと質疑応答からの基本練習、曲練習。2時間みっちり交流を楽しみました。メンドシーノでは交流実行委員会、アーティスト、そしてMENDO太鼓のメンバーの皆さんの温かく完璧なサポートにより何の心配もなく演奏や交流に集中する事ができ充実した時を過ごす事ができました。今回初となる芸術交流での和太鼓演奏でしたが昨年から再開された交流事業に勢いをつける意義ある活動であったと自負しております。改めて、応援してくださった皆様本当にありがとうございました。



道の駅で夏のイベント開催

よっとくれフェア&美麻市&お山とお肉のピクニック



美麻地域づくり会議主催で、7/28に恒例の「よっとくれフェア」と毎月定例の「お山とお肉のピクニック」を7月29日にほかほかランド美遊で開催しました。猛暑の中、多くのご来場ありがとうございました。美麻ジビエ肉の試食会、源流美

麻太鼓の演奏、水の足湯、鹿革クラフト、鹿角のアクセサリー販売、レトロ絵のプリント、木工ワークの出店や、飲食の出店、ピヤガーデンと盛りだくさんでした。ワークショップでは、ドッグランの囲いを間伐材で作りました。

特に当会の会員アイデア大賞は、自転車をこいで、電気を作り、かき氷器を回す装置でした。「ほんとにこれでかき氷できるの〜？」にこにこといううれしい声が弾みます。熱い夏、おいしくかき氷を食べることができました。遠くからの来場者も増え、楽しい会話も弾んで、楽しい2日間でした。

両イベントも年々、出店、参加者が増えています。過疎化、獣害等の地域課題を楽しく乗り越えていきたいと思っています。今後とも当会にご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

(事業部会長 渡辺 寛)

大町やまびこまつりに参加

今年も、「大町やまびこまつり」へ参加をしました。美麻連は、会員、源流美麻太鼓の会や美麻小3学年の方の参加があり約60人を超えるおどり連となり、練習の成果を発揮し、元気いっぱい踊りました。また、例年恒例となっている間伐材を利用した足湯も出店し、多くの方の利用があり好評をいただきました。

おどり連に参加していただいた皆様、大変お疲れさまでした。またご協力をいただいた皆様、大変ありがとうございました。

(地域づくり会議事務局)

去年から学年の中で「来年は皆んなで踊ろう！」と話しがでていて、今年のみあさ連参加に繋がりました。当日の踊りで着れるように急ピッチで学年Tシャツも用意しました。3年のクラス担任も参加して下さり、生徒達を盛り上げてくれました。30人を超える方が参加してくれたので、連としても人数が増えて盛り上がりれました。初めて「やまびこまつり」に参加した子供も多かったのですが、親子共に皆笑顔で楽しむ事ができました。とても良い経験と思い出になりました。

(3学年保護者 小林 由美)



令和6年度夏季球技大会開催

8月18日、恒例の美麻地区夏季球技大会が好天に恵まれ美麻小中学校を会場にソフトバレーボールとグラウンド・ゴルフの2種目で熱戦が繰り広げられました。

○ソフトバレーボール

・参加チーム数:4チーム(総あたりのリーグ戦)

＊優勝:新行 3勝0敗、準優勝:千見 2勝1敗、第三位:ミラクルソルト 1勝2敗

○グラウンド・ゴルフ

(1)団体の部 6チーム

＊優勝:二重 338、準優勝:青具A 351、第三位:千見 361

(2)個人の部 参加者数:43人

＊優勝:小林敏文(二重) 51、準優勝:竹内 稔(大塩) 51(年齢により下位)、第三位:和田一孝(新行) 52

(美麻公民館)



～歓（黄）声、犀川の溪谷に響く～



美麻地区子ども会育成協議会は8月2日、大町市八坂の[さざなみ]を出発点とするラフティン

グの体験活動を行いました。この日は、天候も良く川面に白波がキラキラと輝く中、33人が参加し、心地よい夏の自然を満喫しました。

子ども達は、水しぶきを受けるたび、カメラが向けられるたびに歓声をあげ、思いおもしろいポーズで写真に納まっていた。

3年生の遠藤空音さんがおわりの会で「初めてのラフティングでガイドさんがやさしく教えてくれてありがとう。流れに突っ込むとき、水しぶきをあびて楽しかったです。」と振り返っての感想を話してくれました。(美麻公民館)

イワナつかみに歓声！塩焼きにして味わう

8月5日、青具の丸切沢川で、イワナつかみを開催しました。体中から汗が噴き出るような蒸し暑さの中、約50人が参加しました。つかみ取りが始まると子どもたちは我先にと川に入り挑戦。保護者も「ほらっ、そこ！」などと叫び熱が入りました。

続いて捕まえたイワナをさばくことにも大勢が挑戦。関係者の手取り足取りの指導により、皆上手にさばけ満足気でした。その後、さばいたイワナを塩焼きにして、昼食のおかずとして食べると、「イワナ、うめえ！」と皆言いながら頬張り、味を堪能しました。

参加した保護者は「自然の中でやる子どもたちの夏の体験としては最高！」と話しました。

この行事を今回開催するにあたり、ご協力いただきました「犀川殖産美麻支部」「青具を元気にする会」の皆様、ありがとうございました。

(美麻公民館)



緑<水・土・里>プロジェクト 水エリア

竹筏に乗って、美麻源流稲尾沢川河口から木崎湖横断 (3年生)



「先生！竹筏やる？ 生坂の大竹が護岸工事で伐採されてしまうから、やるなら今年が最後だよ。」と千見の小林さんから電話があった。子どもたちに伝えたとその気満々なので決行することに。切り出しと運搬を小林さんが一手に担って下さり、サイズの加工や組み立て、運搬を大勢の保護者支援パートナーズ(棟梁青太郎パパ)と地元伊藤組さんのユニックを使い行った。

横断当日、木崎湖漁協様のご厚意で栈橋スタートが実現。育てる会よりライフジャケットをお借り

し、だるまや本店さんの和船や総合体育館の救助艇、先導のカヤックにパパママサップ隊に守られながら安全対策万全で出航。

声を掛け合い、進む方向を見定め力いっぱい漕ぐ子どもたち。一生懸命に漕ぐもののうまくいかないよき体験もした。力を合わせていくことの素晴らしさも感得できた。みんなのサポートで実現できた竹筏プロジェクト。感謝しかない。

(文責 小林 隆)

山留生の生活を体験 ～5、6年通学合宿～

6月19日～23日、5、6年生の希望者による山留センターへの通学合宿がありました。参加者は5日間、センターへ宿泊し、センターのスケジュールで生活を送りました。

参加した子どもたちの感想は、「時間が決まっていた大変だった。」「学校から帰っても集団生活だったから大変だった。」「楽しかった！」などさまざまでした。親元を離れ下校後も集団生活を送っている山留生のことを見直したという5年生もいました。受け入れた山留生の子たちは「山留センターでの生活について教えるのが大変だった。」「太鼓の練習をしたが、みんな上手だった。」「通学合宿が楽しかったので、終わってみんなが帰ったときは寂しかった。」と、いつもとは違う生活を楽しめ

たようでした。最終日にはキャンプも行われました。雨の中でしたが、グループで協力して充実したキャンプになりました。(文責:5学年担任 嶺村)



梅雨の合間をぬって、唐松岳登山へ

これほど好天に恵まれ、山の景色を満喫できる登山はなかなかないというくらい、絶好の登山日和でした。



【生徒感想より】

- ・歩いているときに飲む水がいつもの水とは比べ物にならないくらい美味しかった。たくさん歩いて汗をかくということと、景色が相まって美味しく感じた。
- ・もしコーヒを持って行って頂上で淹れようものなら、もう気分は最高です。
- ・唐松岳に登って、頂上についた時は、360度空

と山で感動しました。いつもは下からしか見ることができない唐松岳の上にいると考えると、とても嬉しかったです。

・ガイドさんが「昔はここで牛を休ませていた」と言っていた。こんな高い山に牛を連れて歩いていたことに驚いた。唐松岳は道幅が狭く、急斜面なところも多かったから、牛は強いんだなと思った。
(文責:太田さや香)

「働く」とは (7年生職場体験)

僕は、今回の職場体験学習を経験するまで「働く」とは「他人のためにやること」「まわりまわって自分のためになること」だと思っていました。今回、体験先を決めるために、事前に各事業所の方がどのような職場であるかプレゼンに来てくださり、自分で希望した職場先で体験させていただきました。体験当日は、みなさんが優しく丁寧に仕事を教えてくれて、チェーンソーの使い方やどのように安全を心掛けているかが分かりました。二日間で、体験しなければ分からないことをたくさん学びました。

職場体験学習を終えて、もう一度「働く」とはということか考えると、体験前にはなかった「家族を支えるために」ということを考えました。理由は、職場の方と話していて、「働く」とは、「楽しく

笑顔の絶えない家庭にすること」だとも思ったからです。最後に、7年生を受け入れてくださったすべての職場の方に感謝します。ありがとうございました。(7年 根本一颯)



ふるさとワーキングホリデー受入中

美麻地区では、今年も交流人口の獲得と地域活性化に向けた取り組みとして、総務省のふるさとワーキングホリデー事業を実施しています。



8月4日から16日までの13日間、ワーキングホリデーで美麻のみなさんに大変お世話になりました。約2週間で、北アルプス国際芸術祭のお手伝いや、林業の体験、鹿の皮をなめす体験、ぽかぽかランド美麻や連日大人気の蕎麦屋、山品さんでのお仕事など、普段都会に暮らしていると体験できな

いような貴重な体験をたくさんさせていただきました。

正直、最初の頃は私が突然美麻を訪れて地域の方々と上手く馴染めるかどうかとても不安でした。しかしたくさんの方々と出会い、交流を深めていく中で地域の温かさを実感し、不安はすぐに解消されました。

話は変わりますが、私は現在大学で「地方都市の活性化」についての研究をしています。ワーキングホリデーに参加しようと思ったきっかけも、その研究のヒントになるのではないかと考えたからです。今回13日間を終えて感じたことは、地方都市を活性化するために必要なのは、直接的な個人と個人の関わり合いなのではないかということです。地域内で関わり合うことはもちろんですが、地域外の個人と直接関わることで地域の魅力が伝わり、積極的に関心を持ち続ける人が増え、活性化につながるのではないかと感じました。

私は美麻を訪れて美麻の魅力と地域のみなさんの温かさを実感したことで、また美麻に訪れたいと強く感じています。

来年からは社会人となりますが、休みの日にはまた美麻を訪れてみなさんと関わり、いつかは美麻の魅力を少しでも多くの人に伝えられる人になりたいです。13日間、本当にありがとうございました。(飛田実紀)

高校生の移動支援事業について意見交換会を開催

美麻地域づくり会議事業部会は8月2日、地区内にお住いの高校生とその保護者を対象にたすかる美麻の運行について意見交換会を開催しました。意見交換会では高校生と保護者から通学等の現状について、通学に利用する電車で間に合う市民バスの運行がないことや、土曜日に図書館や買い物のために大町へ行きたくても市民バスが運行していないことから不便に感じている。そのため忙しい時間の合間を縫って保護者が送迎しているなど、市民バスの運行時間を利用しやすい時間帯に変更することができないかなどの意見が多く出されました。

その上でたすかる美麻の運行について、市民バスが動いていない平日の早朝や夜、また、土曜日

の昼間に毎回でなくても運行できれば家族の負担を減らす面でとても助かるとの意見が出されたとともに、実際に利用するとなると乗車定員や費用負担のあり方、運転手の確保など運行や運営面について、いくつかの課題も上げられました。

事業部会では今回の意見交換会で出された意見を参考とし、部会の中で協議を行い、今後のたすかる美麻の運行に生かしてまいります。(地域づくり会議事務局)

